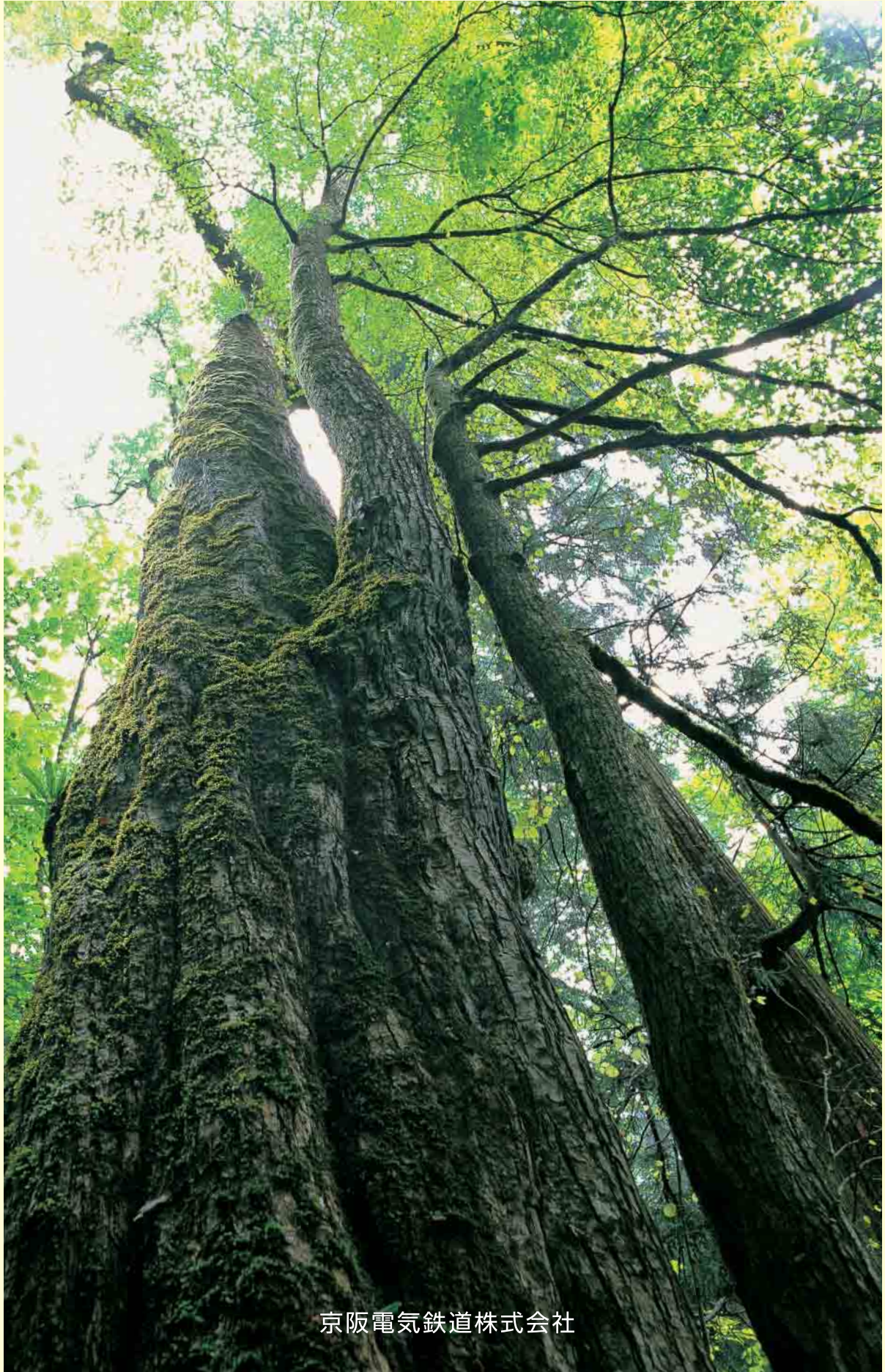


Environmental Report 2005

# 環境報告書 2005



## 京阪グループネットワーク (2005年6月30日現在)

京阪グループでは、  
当社がグループの全体戦略を構築し、  
グループ会社(当社の事業を含む)それぞれが  
自立した企業群として成長を図っています。  
具体的には、グループ会社を9つの事業群  
(鉄道・バス・タクシー・不動産・建設・駅サービス・  
流通・ホテル・レジャー)に区分し、  
事業ごとに統括責任者を配置し、  
関与グループ会社の事業執行権限を  
委譲して群経営を推進しています。



### 鉄道事業

叡山電鉄株  
京福電気鉄道株  
(株)京阪エンジニアリングサービス  
(株)京阪レジャーサービス  
中之島高速鉄道株

### バス事業

(株)京阪バスシステムズ  
京阪バス株  
京阪シティバス株  
京阪京都交通株  
京阪バスサービス株  
ケービー・エンタープライズ株  
京阪宇治交通株  
京阪宇治交サービス株  
京阪宇治バス株  
京阪宇治交通田辺株  
江若交通株  
(株)ザ・コジャック  
京都バス株  
ケーター自動車工業株

### タクシー事業

(株)京阪タクシーシステムズ  
京阪タクシー株  
滋賀京阪タクシー株  
敦賀京阪タクシー株  
(株)トラベル京阪  
宇治京阪タクシー株  
大阪京阪タクシー株  
汽船タクシー株

### 不動産事業

京阪ビルディング株  
京阪カインド株  
京阪電鉄不動産株

### 建設事業

京阪産業株  
(株)かんこう  
(株)ソイルエンジニアリング  
(株)文化財サービス  
京阪建設株  
京阪園芸株  
成幸工業株

### 駅サービス事業

(株)京阪ステーションマネジメント  
(株)京阪交通社  
(株)京阪エージェンシー  
京阪ライフサポート株

### 流通事業

(株)京阪流通システムズ  
京阪電鉄商事株  
(株)京阪百貨店  
(株)京阪友の会  
(株)京阪ザ・ストア  
(株)京阪レストラン  
(株)ジュースバー・コーポレーション  
(株)京阪エバーナイス社

### ホテル事業

(株)京阪ホテルシステムズ  
(株)琵琶湖ホテル  
琵琶湖ホテルサービス株  
(株)ホテル京阪  
(株)京阪アーバンシステムズ  
(株)京阪リゾートシステムズ  
京都タワー株

### レジャー事業

琵琶湖汽船株  
琵琶湖汽船サービス株  
琵琶湖汽船食堂株  
大阪水上バス株  
比叡山鉄道株  
(株)樟葉パブリック・ゴルフ・コース  
比叡山自動車道株  
(株)ガーデンミュージアム比叡  
京阪福井国際カントリー株

### その他

(株)大阪マーチャンダイズ・マート  
(株)京阪ビジネスマネジメント  
(株)京阪フィナンシャルマネジメント  
(株)京阪ベンチャービジネス  
(株)京阪カード

## ごあいさつ

9月25日までの期間で開催されている『2005年日本国際博覧会』（略称：『愛知万博』、愛称：『愛・地球博』）のテーマは「自然の叡智」です。2月に京都議定書が発効し、脱温暖化社会に向けた国際的な取り組みが始動した年にふさわしい、まさに時宜にかなったテーマ設定だと思います。

ところが、昨夏から今春にかけて、福井豪雨、新潟県中越地震、福岡西方沖地震、国外に目をやればスマトラ沖大地震およびインド洋津波の発生と、私たちは残酷なまでの「自然の脅威」を立て続けに見せつけられることになりました。また、伝え聞くところによると、改革開放政策によって「世界の工場」と呼ばれるまでの経済成長を成し遂げた中国では、今やマイカー保有台数が1千万台を突破し、大気汚染の深刻化が懸念されているとか。

こうした報道に接するにつけ、持続的発展が可能な社会の実現に向けて、地球温暖化防止をはじめとする環境保全活動の世界規模での取り組みの必要性を痛感するとともに、「微力ながらも当社および当社グループが貢献できることは何か?」と自問自答を繰り返さずにはいられませんでした。本年4月15日に発表したグループの次期経営計画『Jump21』の中で、「スピード経営」「コンプライアンス経営」「ブランド経営」と並ぶ経営品格向上のキーワードとして「環境経営」を掲げたゆえんです。

今後も当社は、社会の一構成員として、引き続き環境への取り組みを推進する一方、グループ会社へも取り組みの輪を広げることで「環境経営」を実現してまいりたい所存であります。つきましては、本書をご高覧の後、当社の環境への取り組みをより充実したものにするため、率直なご意見をお聴かせいただければ幸甚の至りでございます。

末筆ながら、本報告書の発行に当たり、当社の環境への取り組みに多大なる関心を寄せてくださった皆様に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長

佐藤 茂雄





2 京阪グループネットワーク

3 ごあいさつ

4 会社概要  
京阪電車沿線案内図

5 CONTENTS  
ISO14001登録証、付属書

6 経営理念／経営姿勢／行動規範  
編集方針

7 環境理念／環境方針  
環境マネジメントシステム  
— 当社の推進体制（2004年度） —

8 法規制の順守／環境教育  
環境活動の沿革

9 環境目的・目標  
2004年度の環境目的・管理項目  
ecoカード

10 Topics 2005

12 全社的な取り組み

13 鉄道事業における取り組み

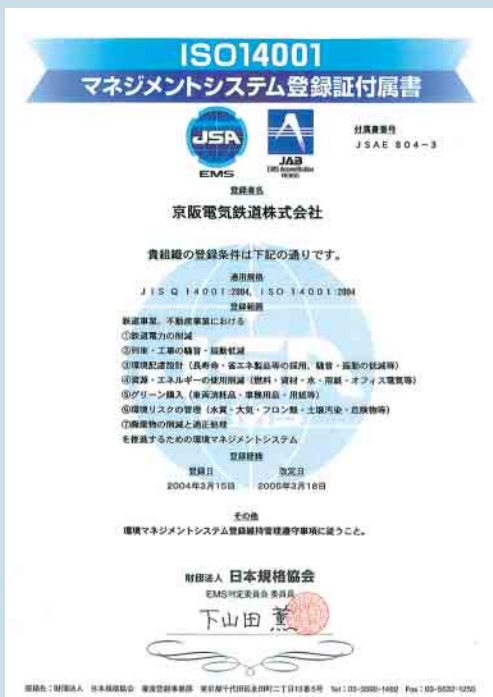
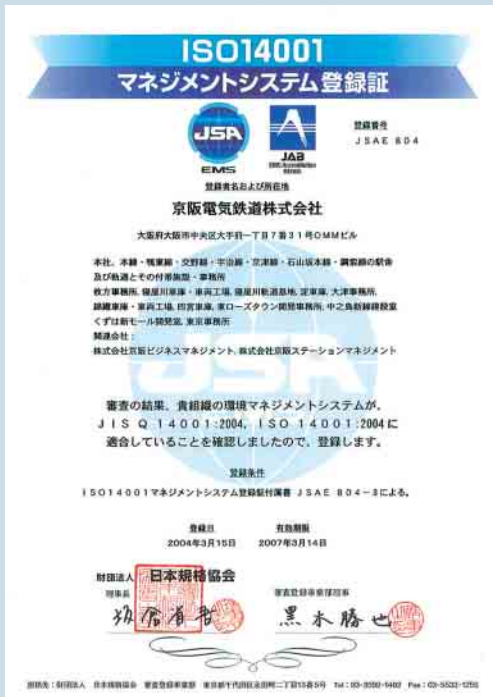
17 不動産事業における取り組み

18 レジャー事業における取り組み

19 グループ各社における取り組み

22 環境会計（2004年度）

23 事業活動に伴う環境負荷（2004年度）



ISO14001にかかる登録証および付属書

登録の対象は、当社の鉄道事業および不動産事業における取り組みです（㈱京阪ビジネスマネジメント、㈱京阪ステーションマネジメントの取り組みを含みます）。

表紙

貴船神社奥宮社殿のカツラ  
●叡山電車 貴船口駅下車 徒歩約25分

## 経営理念

京阪グループは、人の暮らしに夢と希望と信頼のネットワークを築いて、  
快適な生活環境を創造し、社会に貢献します。

## 経営姿勢

1. 地域社会、顧客、株主、社員を大切にします。
2. 法令および社会規範を遵守し、企業の社会的責任を果たします。
3. 自然環境にやさしい企業運営を目指し、環境の保全や資源の保護に配慮します。
4. 常に新しいことに取り組み、自己改革を実現します。
5. 顧客第一主義のもと、鉄道事業を基幹としたライフステージネットワークを展開し、快適な生活環境を創造します。

## 行動規範

4つの「……ために」

- お客様のために    ■ 私たちのために    ■ 社会のために    ■ 会社のために

## 編集方針

**作成目的** 当社の環境に対する取り組みや今後の姿勢をお伝えすることを目的として発行しました。

**作成指針** 環境省「環境報告書ガイドライン 2003年度版」を作成の指針とし、  
現状で開示可能な範囲の内容を記載しています。

**報告対象期間** 2004年度（2004年4月1日～2005年3月31日）を対象期間としましたが、  
一部については対象期間外の内容を含みます。

**報告対象範囲** 当社を対象としていますが、一部についてはグループ会社を含みます。

**お問い合わせ先** 京阪電気鉄道株式会社  
経営統括室 経営政策担当（環境マネジメント）  
〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号（OMMビル）  
TEL:06-6944-2529 FAX:06-6944-2584 <http://www.keihan.co.jp>

## 環境理念

京阪グループは、「地球環境の保全是人類共通の重要課題の一つである」との認識のもと、環境の保全や資源の保護に配慮し、自然環境にやさしい企業運営を目指すことで、持続的に発展できる社会の実現に貢献します。

## 環境方針

京阪電気鉄道は、京阪グループの環境理念に基づき、鉄道事業を基幹とした様々な事業活動から生じる環境への影響に配慮し対応していくことを社会的責務と認識し、次の通り「環境方針」を定めます。

### 1.意識の向上

私たちは、環境への影響を常に考えながら業務に取り組み、環境問題に対する意識の向上を図ります。

### 2.法規の遵守

私たちは、環境に関する法規制や当社が受け入れを決めた要求事項を遵守します。

### 3.目的や目標の設定と継続的な改善

私たちは、環境にやさしい事業運営につながる目的や目標を設定し、それらを達成するために仕事の進め方を見直しながら、継続的な改善を推し進めます。

### 4.環境負荷の低減や環境汚染の予防

私たちは、限りある資源を有効に利用し、省資源・省エネルギーの推進や廃棄物の削減などを図ることにより、環境負荷の低減や環境汚染の予防に努めます。

### 5.重点実施項目

私たちは、当社の事業活動による環境面での影響の特性を考慮し、次の項目について重点的に取り組みます。

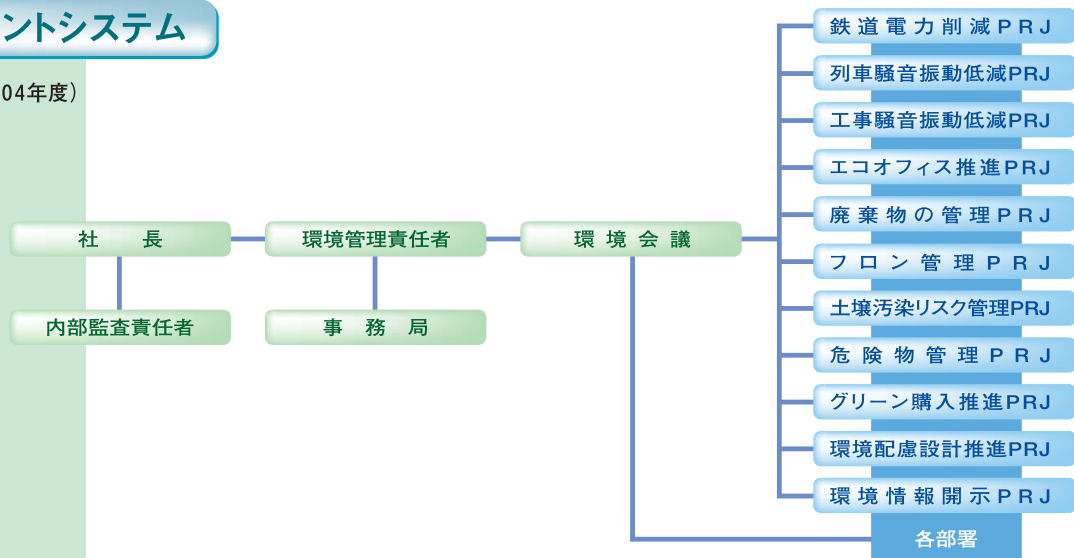
(1) 鉄道騒音・振動の低減 (2) 鉄道電力の削減 (3) 環境配慮設計の推進

### 6.地域社会への貢献

私たちは、企業市民であるという自覚を持ち、環境に配慮した日常の行動を通じて地域社会に貢献します。

## 環境マネジメントシステム

当社の推進体制(2004年度)





## 法規制の順守

当社の事業活動に適用される環境関連の法律（法、施行令、施行規則）、命令（政令、省令、内閣府令、告示、通達）、条例、協定その他の要求事項を特定し、各部門における環境管理に確実に反映させ、法規制の順守に努めています。

## 環境教育

当社の環境マネジメントシステムを運用するうえで必要な教育訓練を管理する「教育訓練実施項目一覧表」を作成し、環境教育を実施しています。

※2004年度は	環境運用主要メンバーへの研修	受講人員	121名
	内部監査員研修	受講人員	26名
	新入社員への研修	受講人員	113名



▲法規制セミナー



環境教育の実施風景

## 環境活動の沿革

- 2000年 9月 ひらかたパークがISO14001の認証（審査登録）を受ける（日本の遊園地で認証を受けたのは初めて）
- 2001年 3月 寝屋川車両基地がISO14001の認証を受ける
- 2002年 6月 浜大津アーカスがISO14001の認証を受ける
- 12月 京阪グループの環境理念を制定
- 2003年 6月 当社の環境方針を制定
- 2004年 3月 当社がISO14001の認証を受ける（全社で認証を受けたのは鉄道業界で初めて）
- 12月 (株)大阪マーチャндаイズ・マートがISO14001の認証を受ける
- 2005年 3月 江若交通(株)がISO14001の認証を受ける



## 環境目的・目標

各部署で生じる環境への影響の原因となる活動や製品やサービスを洗い出したうえで、会社が管理すべき環境改善項目(環境目的)と維持管理項目を下記の1～10に示すとおりに決定しました。

複数部署で横断的に取り組むべき項目については、プロジェクトチームを発足させ、プロジェクトチーム単位で取り組みを推進しました。

2004年度の環境目的・管理項目	
環境目的・管理項目	環境目標・管理
1 鉄道電力の削減	使用電力量の削減
2 列車騒音・振動の低減	列車走行による騒音・振動の低減の実施
	列車走行による騒音・振動等苦情の把握
	列車走行による騒音・振動等実情(定期測定)の把握
3 工事騒音・振動の低減	直営・請負作業の騒音・振動配慮の実施
4 エコオフィスの推進	各種紙・電力・ガソリン・ガス・水の使用量の削減
5 資源・エネルギーの使用削減	資源・エネルギー使用量の把握
6 廃棄物の削減と適正処理	廃棄物管理手順の構築
7 環境リスク管理	フロン、危険物、土壌汚染リスクの管理など
8 グリーン購入の推進	特定調達品目のグリーン購入
	コピー用紙・帳票類等の再生紙購入
9 環境配慮設計の推進	環境配慮設計の検討実施
10 環境情報開示の推進	環境報告書(2005年度版)の発行

## ecoカード

### ecoカード

#### 京阪グループの環境理念

京阪グループは、「地球環境の保全は人類共通の重要課題の一つである」との認識のもと、環境の保全や資源の保護に配慮し、自然環境にやさしい企業運営を目指すことで、持続的に発展できる社会の実現に貢献します。



当社では、「環境理念」や「環境方針」を記載した「ecoカード」を全社員に配布し、常時携帯させることにより環境理念・方針の浸透を図っています。

#### 京阪電気鉄道の環境方針

京阪電気鉄道は、京阪グループの環境理念に基づき、鉄道事業を基幹とした様々な事業活動から生じる環境への影響に配慮し対応していくことを社会的義務と認識し、次の通り「環境方針」を定めます。

- 1. 意識の向上**  
私たちは、環境への影響を常に考えながら業務に取り組み、環境問題に対する意識の向上を図ります。
- 2. 法規の遵守**  
私たちは、環境に関する法規制や当社が受け入れを決めた要求事項を遵守します。
- 3. 目的や目標の設定と継続的な改善**  
私たちは、環境にやさしい事業運営につながる目的や目標を設定し、それらを達成するために仕事の進め方を見直しながら、継続的な改善を推進します。

#### 4. 環境負荷の低減や環境汚染の予防

私たちは、限りある資源を有効に利用し、省資源・省エネルギーの推進や廃棄物の削減などを図ることにより、環境負荷の低減や環境汚染の予防に努めます。

#### 5. 重点実施項目

私たちは、当社の事業活動による環境面での影響の特性を考慮し、次の項目について重点的に取り組めます。

- (1) 鉄道騒音・振動の低減
- (2) 鉄道電力の削減
- (3) 環境配慮設計の推進

#### 6. 地域社会への貢献

私たちは、企業市民であるという自覚を持ち、環境に配慮した日常の行動を通して地域社会に貢献します。

この環境方針は、全従業員に周知させるとともに、社外にも公開します。

平成15年6月2日

京阪電気鉄道株式会社

取締役社長 藤田 誠

## くずはモールがオープン



▲本館

本年4月、営業面積50,000㎡、専門店約150店と関西圏有数の規模を誇るショッピングセンター「くずはモール」(本館・西館)が樟葉駅前にオープンしました。近くKIDS館もオープンする予定です。

その建設に当たって環境に配慮した設計・施工を行ったほか、オープン後の運営についても環境への負荷を減らす試みを行っています。

▼西館



### ヒートアイランド対策

アスファルトで舗装された路面は、昼間時の太陽による熱射で高温となり、その熱を夜間に放出します。一方、緑地面積の減少により、植物や地表からの水分蒸発量が減少します。こういった要因によって、都市部の気温が周辺部よりも高くなることをヒートアイランド現象と言います。

くずはモールでは、その対策として屋上駐車場に木製パーゴラを設置し、約400㎡にわたってツタ類を植えているほか、レストラン街「DINING.ST(ダイニングストリート)」には、屋上庭園を設けるなどして、緑地面積を増やしています。

また、DINING.STの通路面には透水性舗装を施し、路面の透水性を高めています。



▲屋上庭園

### CO<sub>2</sub>排出量の削減

太陽光発電設備を採用し、照明設備に必要な電力の一部を賅っています。

また、化石燃料(石油、石炭、天然ガスなど)を使用しない、深夜電力を利用した水蓄熱設備による空調を採用し、CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)排出量の削減と省エネルギーを図っています。



▲太陽光発電

### 廃棄物の削減

日々の営業活動で発生する廃棄物を計量するシステムを導入し、排出量の把握やその削減に努めています。

また、分別指導員を置くことで分別を徹底し、テナントと協力しながら効率的なリサイクルを行っています。

## 京阪石山駅の移転工事が完成



本年4月、2003年から進めていた石山坂本線・京阪石山駅の移設工事が完成しました。新・京阪石山駅には、当社がメーカーと共同開発した素材をはじめ、随所に環境に配慮した設備・素材を使用しています。

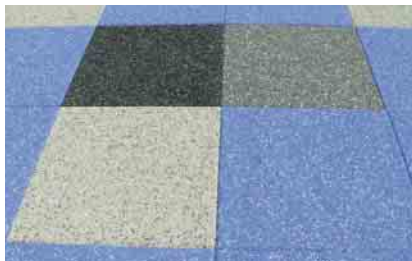
▼改札口付近



### 駅設備用エコタイル

自動車などの古タイヤを粉碎処理し、再凝固させたりサイクル素材を使用したタイルです。当社では、耐用性の高いタイプを採用したほか、メーカーと共同で開発した点字ブロック状のエコタイルを使用しています。

このタイルは、アスファルトに比べて透水性が高いため、地球温暖化の防止に貢献します。また、雨の日にも滑りにくく、その上で転倒された方がケガをしにくいという特長も併せ持っています。



▲エコタイル



▲TVC

### 省エネ型電照看板「TVC」

エッジライト方式という特殊な発光方式を採用することで、従来よりも薄い仕上がりで少ない消費電力量を実現した電照看板です。

京阪石山駅の駅名標のほか、京橋駅、丹波橋駅の広告看板にも使用しています。



▲ウッディーペット

### ペットボトル再生素材「ウッディーペット」

従来の素材に比べ、耐火性、耐久性に優れているうえに硬度も高いのが特長です。

長期使用が可能な素材で、京阪石山駅ではベンチに使用しています。



ベジシート▶

### 軌道緑化シート「ベジシート」

線路内に、特殊な網目構造の不織布に植物の種を植え付けた緑化シート「ベジシート」を敷き詰め、緑地面積を増やすことにより地球温暖化の防止に貢献しています。

## 京阪シティモール(愛称:シティモ)がオープン

本年5月、天満橋駅に直結する京阪ビルディングに、都市型ショッピングセンター「京阪シティモール(愛称:シティモ)」がオープンしました。天満橋かわいは江戸時代に八軒家浜として栄えた地で、大阪府による復元構想も持ち上がっている「水都・大阪」を象徴する地です。

シティモもその歴史の流れをくみ、大川沿いの公園ゾーンと一体化した「水都・大阪」のシンボル施設として、この地に新たなにぎわいを創出しています。



▲京阪シティモール外観

### シティモの環境への取り組み

店舗内の通路等に使用する照明器具を省エネルギータイプにすることにより、使用電力の削減に努めています。また、飲食店舗の厨房にグリストラップ(※)を設置するなど、環境への配慮を行っています。

なお、工事に関しては、低騒音型機械を使用するなど、騒音の低減に努めたほか、工事に伴って発生する産業廃棄物についても、マニフェストにより適正な処理を行うよう管理しました。

(※)グリストラップとは・・・

排水に含まれる油脂分を分離収集し、下水道に直接流さないように一時ためておく油脂分離装置のことです。業務用厨房に設置が義務づけられています。

## 中之島新線建設工事

中之島新線は、京阪本線の天満橋駅から分岐し玉江橋駅（仮称）に至る約2.9kmの路線で、現在、2008年度の開業をめざして建設工事を進めています。

中之島地区では大規模な再開発が進んでおり、大阪市

では、「大阪の文化・情報の中心としての機能を備え、ウォーターフロントなど水辺の景観を活用した世界に誇れる大阪の顔とする」としています。

これを受けて、建設工事に当たっては水辺かつ緑に囲まれているという立地特性を生かし、周囲の景観に配慮するよう努めています。



### 低騒音型の建設機械の導入

新線建設工事では、建設機械の使用に伴い、騒音や振動が発生します。当社では、低騒音型建設機械を導入して騒音の低減を図り、より良い地域環境の実現をめざしています。

### 舟運の利用

掘削工事に伴い発生する残土は、中之島という川に面した立地を生かし、工区から土砂運搬船に積み込み、最終処分地への中継地まで運んでいます。

トラック輸送に比べCO<sub>2</sub>やPM（粒子状物質）等の排出を大幅に削減でき、またトラック走行に伴う騒音・振動の低減、交通渋滞緩和にも寄与しています。



### イメージアップの推進

工事現場から人を遠ざけないように樹木や草花を沿道に植栽し、景観の保持や緑化に努め、工事のイメージアップを図っています。また、遊歩道や柵などには、環境にやさしい資材を採用しています。

## Environmental Report 2005

## 全社的な取り組み

### エコオフィスの推進

#### 電力消費量の削減

省エネルギーを進めるうえで最も基本的かつ効果的なことは、「使わない時には電源をOFFにする」ということです。そこで、各オフィスでは、休憩時間中には消灯して電力消費量の削減を図っています。また、長時間使用しないテレビなどの電気製品のプラグをコンセントから抜くことで待機電力をカットしたり、空調機器の設定温度にも一定の基準を設けて無駄を省いたりしています。



▲節電モードに設定したコピー機

#### 機密文書類の処理

本社事務所で1年間に処理する機密文書類は2～3tに上ります。従来は焼却処理をしていましたが、焼却の際に発生するCO<sub>2</sub>は環境に少なからず影響を与えていると考え、環境にやさしいと言われる溶解処理に変更しました。

大気汚染防止に一役買うだけでなく、溶解処理の際に出る残存物も再生紙やトイレトーパーに生まれ変わるなど、資源の有効利用にも貢献しています。

#### ペーパーレス化に向けての取り組み

昨年度に引き続き、ペーパーレス化の一環として、電子メールによる資料配布、両面コピー・集約コピーの利用促進を図るとともに、部署ごとにコピー用紙の使用枚数を月単位で管理し、実績の多い部署に対しては削減努力を求めています。

また、ミスコピー用紙の裏面の利用促進を図るため、コピー機の横には協力を求めるポスターを張り出すとともに、ミスコピー用紙をためるラックを設置しました。

### グリーン購入の推進

グリーン購入の推進をめざして、2004年度は①文具具類特定調達品目の環境対応品購入率②名刺・封筒・帳票類の再生紙製品購入率③コピー用紙の再生紙製品購入率の3点につき数値目標を設定し、②を除いて十分に数値目標をクリア（②についても数値目標100%に対して99.5%）できました。

今後は廃さびぐを利用したトイレトーパーの導入を進めるなど、さらにグリーン購入の対象品目を拡大していきます。

## ■ 鉄道電力の削減

### 運転・運行による消費電力削減

運転の仕方によって、消費電力を削減することができます。列車の定時性を確保しつつ、できる限り惰行運転を推進するのもそのひとつです。また、回送列車では車内灯（昼間時）や冷暖房をOFFにするなど、消費電力を削減する努力をしています。

なお、こうした取り組みによる効果をより高めるため、使用電力量の計測データを現場にフィードバックしています。

### 電力区分の明確化

鉄道電力の区分を①列車の運転に使用する運転用電力と②駅や事務所で使用する付帯用電力とに分けて明確にし、鉄道事業部とお客さまサービス事業部の各部署でそれぞれ使用電力量の削減に取り組んでいます。

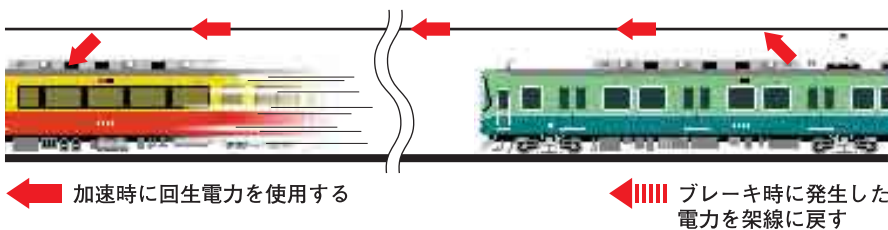
### 回生ブレーキの採用

モーターを発電機として使用し、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することでブレーキをかける回生ブレーキを採用しています。

発生した電力は架線に戻され、走行中の他の列車が使用することで、消費電力の削減に大きく貢献します。

2004年度までに580両に導入しており、今後もさらに導入を進めていきます。

### 電力回生ブレーキのしくみ



### VVVF制御車両への代替

VVVF制御 (Variable Voltage Variable Frequency Control) とは、直流電力を交流電力に変換し、電圧と周波数を変化させることにより交流モーターを制御する方式です。

従来の車両では、直流モーターの速度をコントロールするために抵抗器を使用しており、抵抗器の発熱によるエネルギーロスが生じていました。これに対し、最新のVVVF制御車両は、抵抗器を使用せず高電圧・大電流の半導体を用いたインバータにより交流誘導モーターの電圧と周波数をコントロールするため、電力のロスがほとんどありません。

2004年度までの導入実績は103両で、今後もVVVF制御車両への代替を推進します。



▲VVVFインバータ制御装置

### LED表示装置

LED表示装置は、従来の信号電球に比べて消費電力が小さく、長寿命で視認性に優れているという特長があります。当社では、LED表示装置を信号機や踏切警報機へ導入し、消費電力削減や安全性の向上に努めています。

2002年に、八幡市一淀間の信号機に初めて導入し、2004年度には樟葉、淀の両駅構内の信号機をLED化するなど、LED表示装置への切り替えを進めています。



▲LED表示装置

### ITVへの液晶モニタの導入

液晶モニタは、従来のブラウン管モニタに比べて消費電力が小さく、また画面反射が少ないため視認性に優れているという特長があります。2000年度より車掌列車監視用モニタに導入を開始し、順次液晶モニタに切り替えを進めています。

また、2004年度からは液晶用に合わせてモニタケースのサイズを小さくし、次回更新時の廃棄物削減につなげています。



▲液晶モニタ

## ■列車および工事の騒音・振動の低減

### 防音車輪の採用

曲線通過時にレールと車輪が擦れて発生するキシリ音を低減するため、ゴムを巻いたリングを車輪にはめ込んだ防音車輪を採用しています。この防音車輪により、15dB～25dB程度の騒音低減を実現しています。

1998年から使用を開始し、2004年度までの導入実績は京阪線では482両、大津線では800系の全車両となっています。



### 直流高速度真空遮断器の導入

直流高速度真空遮断器は、真空バルブ内で電流を遮断するため、従来の直流高速度気中遮断器とは異なり、遮断時に空気中でアークを切る爆発音的な大きな音が発生しないという特長があります。

牧野変電所にて、2002年度に整流器正極用2台、2004年度にき電用4台の計6台の直流高速度気中遮断器を直流高速度真空遮断器に更新しました。



▲真空遮断器

▲従来の気中遮断器

### CFRP製パンタグラフ集電舟の採用

架線とパンタグラフの集電舟が擦れることで起こる騒音を低減するため、CFRP（炭素繊維複合材）製の集電舟を採用しています。従来のアルミ製の集電舟に比べて、追従性が高いという特長があります。さらに、構造の見直しによる相乗効果で、音圧レベルが低減します。

2002年度に初めて導入され、京阪線では2004年度までに387台中44台、大津線では800系の全車両に導入しています。



### レール削正車の導入

レールの表面に凹凸があると、騒音や振動の発生原因となります。レール削正車は、砥石を使ってその凹凸や傷、疲労層などを削ることを目的とした車です。騒音や振動を低減すると同時に、傷の除去によりレールの寿命を延ばすことも可能となり、これによって資源の保護にも貢献しています。

2001年より16個の砥石を使用した16頭式レール削正車を導入し、積極的なレール削正作業を展開し、2004年度までに延べ64.7kmを施工しました。



### 弾性まくらぎ直結軌道の採用

コンクリート製まくらぎは、木まくらぎよりも耐久性が強く、騒音や振動を低減することができます。そのコンクリート製まくらぎの下面や側面を軟らかいゴムで覆った弾性まくらぎをコンクリート路盤へ直接取り付け付けた軌道構造を採用しました。これにより、さらに列車の走行によって発生する騒音や振動を低減することができます。

現在、寝屋川高架、淀車庫高架、京都地下線（七条一出町柳間）など、約6,000mにこの軌道を採用しています。



### マルチプルタイタンパーの導入



列車が走行するたびに、2本のレールの横方向の高さに少しずつズレが生じます。これが大きくなるほど騒音や振動が増大し、さらにズレがひどくなると脱線を引き起こしかねません。当社では、このズレを直すために、マルチプルタイタンパーという大型機械を導入。レールを理想的な位置に修正したうえでバラスト（線路に敷き詰められている碎石）をつき固めるといった一連の作業を効率的に実施しています。

2004年度には、延べ56.3kmを施工しました。

## ロングレール化の実施

レールには、温度変化による伸縮に対応するため、継ぎ目が設けられています。「ゴトンゴトン」という列車特有の継続的な振動は、この継ぎ目によるもの。ロングレール化とは、このレールの継ぎ目を溶接して1本のレールにするものです。継ぎ目による騒音・振動が軽減され、より快適な乗り心地を実現します。

当社では、曲線部など、安全性が低下する部位を除き、積極的にロングレール化を推進しています。



## 道床交換作業

道床とは、線路に敷き詰められている碎石のこと。列車の重さを受け止めて分散させ、振動を和らげる働きをします。

何度も電車が通過するうちに碎石の表面や角が削れ、レールの横方向の高さにズレが生じるため、道床の状態を定期的にチェック・交換し、列車走行時の騒音・振動の低減を図っています。



## 散水装置などの設置

大谷・上関寺・上栄町・札の辻・浜大津・四宮車庫構内に散水装置を設置。さらに、800系3両、600形3両に塗油装置を設置しています。

これらの装置の設置により、レールと車輪の間で発生するキシリ音を低減させることができ、列車運行の低騒音化を実現しています。



## 列車騒音・振動の低減

警笛個所の見直しや、早朝深夜の駅の自動放送および閉扉時の警報音の音量低減など、音の発生源に関してきめ細かなチェックを実施。大津線では、800系車両に従来の空気式警笛よりも音色が柔らかく、騒音が低減できる電子警笛を採用しています。

さらに、車輪踏面の傷の早期発見と修理、曲線・勾配箇所や線路分岐点通過時の速度の抑制などによっても騒音・振動の低減を図っているほか、騒音・振動定期測定を行うことで、騒音・振動の大きい個所の把握にも努めています。

## 鋼橋の騒音対策工事

天満橋一森小路間の前島跨線橋(1線)、城北川橋(4線)において、鋼橋から列車走行音を低減できるコンクリート橋に改築する工事を行っています。

前島跨線橋は2005年度、城北川橋は2006年度の完成を予定しています。



▲城北川橋(完成予想図)

## 資源・エネルギーの使用削減

### 鉄道部材のリサイクル

使用後のPCまくらぎや保守作業で発生した銅線くずや鉄線くずなどの処理は、特定リサイクル会社に委託しています。

また、密閉式ニッカド電池・ニッケル水素電池・リチウム電池・小型シール鉛蓄電池などは他の電池と分別収集のうめメーカーに返却し、リサイクルを行っています。



### 乗車券のリサイクル

お客さまに購入していただくきっぷに関してもリサイクルを推進しています。使用済みのきっぷに関しては、自動改札機を通して回収後、パルプと磁性体に分離して古紙として再生しています。

当社では、京阪線全駅と改札内にトイレがある大津線の7駅のトイレに、きっぷをリサイクルしたトイレトーパーを設置しています。



### ICカードシステム「PiTaPa」の導入

現在の主流である磁気カードおよびプリペイドカードをICカードに置き換えることにより、使い捨てられるカード本体の産業廃棄物の減少や、駅務機器の機械駆動減少による省エネルギー効果が期待できます。



## ■資源・エネルギーの使用削減

### ゴミのリサイクル

駅のホームのゴミ箱を「新聞・雑誌」「カン・ビン・ペットボトル」「その他のゴミ」に分類。お客さまにゴミの分別に協力していただいています。

2004年度は2,355tが回収され、そのうち新聞やカン、ビンなどはリサイクルされています。



### 石油使用量の削減

非常用発電機の実負荷試験の回数を削減したほか、運転時間の削減により重油の消費量を削減しています。



▲非常用発電機とその内部▶



### 洗車時における節水

車両を洗車する際には、汚れの場所や程度に応じて前面洗車・側面洗車・洗車中止などに分類したほか、汚れの程度に応じて洗車速度をコントロールすることで効率的に水を使用し、水使用量を削減しています。



## ■廃棄物の適正処理

### フロンの適正処理

破棄される空調機に関しては、フロンの適正な回収および破壊処理の実施を推進。

各部門で使用される空調機のリフレオンなどの使用設備台帳を作成し、新設および廃止の管理を徹底しています。

2004年度に破棄された空調機、チリングユニット（小型冷凍機）に関しては、100%のリフレオン回収・破壊を実施しています。

## ■環境配慮設計の推進

### 工事における設計

工事の設計では、消費エネルギーを最小化するインバータ制御機器の採用を推進しています。

また、消費電力量が削減できるLED機器を採用するなど、環境にやさしい施設・設備づくりをめざしています。

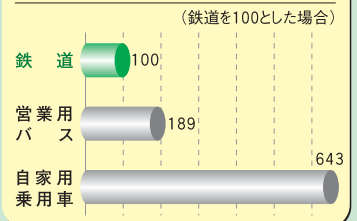
各工事では、「環境配慮設計チェックシート」を作成するなど、計画的に取り組んでいます。

## エコプラス1

### ～ 鉄道利用の促進 ～

鉄道は、その運行に使用されるエネルギーの大半が電力であるため、単位輸送量当たりのCO<sub>2</sub>の排出量の少ない、環境にやさしい交通機関です。当社では、この特性を生かすためにも、より多くの方に利用していただけるよう、駅施設の改善など様々な取り組みを行っています。

1人を1km運ぶのに消費するエネルギーの比較(2003年度)



【出典:国土交通省総合政策局情報管理部 監修「交通関係エネルギー要覧(平成17年版)」】

### ■駅のバリアフリー化

体の不自由な方にも快適に鉄道を利用していただくために、エレベーター、エスカレーターや車いす用スロープ、階段昇降機、身障者対応トイレなどの設置を進めています。

2004年度には、淀屋橋、天満橋、守口市、中書島の4駅にエレベーターを新設・増設しました。



### ■パーク&ライド

大津線では、大津市、京都市と協力し、大津線1日乗車券「湖都古都・おおつ1dayきっぷ」もしくは京都市営地下鉄への連絡乗車券を購入されたお客さまに、浜大津駅に隣接する大津市公共駐車場の1日駐車券を半額で発売しています。

これにより京都市内方面へ向かう自動車利用者の鉄道利用を促進し、CO<sub>2</sub>排出量の抑制に貢献しています。





▲京阪東ローズタウン・ファインパーク

### 省エネルギー設計の追求

分譲マンションの設計において、断熱性能の向上に配慮するなど、省エネルギー設計によりお客さまに優れた経済性をお届けすることはもちろん、エネルギーの使用を抑え、CO<sub>2</sub>の発生を削減することにより、地球環境の保護にも配慮しています。

「京阪東ローズタウン・ファインパーク」では、「次世代省エネルギー基準」に基づき、断熱性能の向上に配慮しており、より少ないエネルギーで快適な生活を実現しています。

### SI住宅の採用

SI(スケルトン・インフィル)住宅とは、長期間の耐久性と間取りなどの変更のしやすさを併せ持った集合住宅のこと。建物を構造躯体(スケルトン部)と設備内装(インフィル部)とに分離し、配管設備などの劣化しやすい部分のリフォームを容易にしました。そのため、従来は平均寿命が20数年と言われていたマンションを、100年以上長持ちさせることが可能になりました。

解体と新築の繰り返しという無駄を減らそうというSI住宅の発想は、地球資源への配慮に他なりません。当社では、「くずはタワーシティ」と「京阪東ローズタウン・ファインパーク」で採用しています。

### 工事騒音・振動への配慮

マンションや造成などの工事の際に使用する機械は、国土交通省告示で指定されているものを採用。また、騒音や振動を軽減するための運転方法の追求、さらに作業員への意識づけなど、きめ細かな教育を実施しています。

### 工事における環境影響を削減

賃貸施設の工事では、設計段階から環境に配慮。

チェックシートを活用して該当項目を抽出し、環境影響を減らす方法を検討しています。また、発注時にもその意図を伝え、より環境にやさしい工事を実現しています。

さらに、工事に伴う産業廃棄物の処理についても、マニフェストに基づく管理を徹底。適正な処理によって、環境への負荷を抑えています。

### 緑化推進による環境との共生

分譲マンションにおいては、緑の豊富なランドスケープを実現するとともに、屋上緑化にも力を入れています。

屋上緑化は、都市部のヒートアイランド現象を抑えるだけでなく、建物自体の断熱にも効果を発揮します。さらに、住まう人の憩いのスペースとしての役割も果たしています。

「京阪東ローズタウン・ファインパーク」では、敷地の30%以上を緑化し、約4,300㎡もの広大な中庭を設けています。

### 雨水の有効利用

水も地球の大切な資源のひとつ。ところが、工業化や環境破壊によって、水不足が国際問題化しています。

当社の分譲マンション「くずはタワーシティ」では、こうした状況に対応するため、雨水を有効利用した<sup>かん</sup>灌水利用システムを採用し、マンションを彩る植栽への水やりなどの場面で活用しています。

### コンポスト処理による生ゴミ削減

企業から出る膨大なゴミを焼却することで、ダイオキシンやCO<sub>2</sub>が発生し、環境に悪影響を与えています。

「京阪東ローズタウン」の事務所では、こうした状況を少しでも改善するために生ゴミの削減に着手。生ゴミ処理機によって生ゴミを分解し、コンポスト(堆肥)として再利用を図っています。

### 環境配慮への意識向上

省エネルギーや環境保護の実効性を高めるうえでは、そうした取り組みに対する平素からの社員の意識が大きな役割を果たします。

そこで、社用自動車から離れる際には必ずエンジンを切る「アイドリング・ストップ」運動を推進。ダッシュボードにステッカーを貼付することで、社員一人ひとりの意識向上を図っています。



▲社用車

アイドリング・ストップ  
実施中  
自動車から離れる時は、必ず  
エンジンを止めましょう!!

▲ステッカー

### 一般廃棄物の保管改善

当社が運営するテナントビルでは、一般廃棄物の再資源化を容易にするべく、分別排出、分別保管の徹底を各テナントに提案。

各テナントのご理解とご協力により、理想的な環境保全活動を推進しています。



## ■ひらかたパークの 取り組み

ひらかたパークは、「花と緑と水そして光」をコンセプトとする1995年からの大規模なリニューアル工事の実施により、「ひらパー」の愛称で親しまれる新しい遊園地に生まれ変わりました。そして、2000年9月には、日本の遊園地で初めてISO 14001の認証を受けました。今後も引き続き、スタッフ一丸となって地球にやさしい遊園地をめざします。



### チケットのリサイクル

お客さまから回収するチケットは膨大な量になりますが、これを一般廃棄物と分別し、業者を介してリサイクルし、トイレトペーパーとして再生・利用しています。

### ゴミの分別・圧縮

園内に「もえるゴミ」「ペットボトル」「あきかん」の3種類のごみ箱を設置し、お客さまにご協力をお願いしています。また、回収後、ペットボトルはフタと本体とに、空き缶はアルミ缶とスチール缶とに手作業で分別のうえ、それぞれを圧縮して廃棄業者やリサイクル業者に引き渡しています。



### 環境教育の実施

アルバイトや委託業者のみならず、一時的に出入りして電気・ガス・水道ほかの工事に従事される方々に対しても同園の環境活動を理解していただき、騒音の低減や廃棄物の削減など、環境に配慮した作業の実施をお願いしています。

### 騒音対策

近隣にお住まいの方々にご迷惑をお掛けしないよう、園内放送やイベントでの音響効果などに対し、自主基準を設けて騒音の低減に努めています。

### その他

遊園地という施設の性格上、電気や水の使用量が入園者数や天候(特に気温)に左右されやすく、しかも事前に予想が立てにくいのが実情です。そこで、少しでも目標数値に近づけられるよう、事務所内のクーラーに節電ステッカーを、園内のトイレへ節水ステッカーをそれぞれ貼付しているほか、閑散時における遊戯機の運転台数削減・消灯を実施するなど、折に触れてスタッフの省エネルギー・省資源に対する意識の向上を図っています。



▲「ジャイアントドロップメテオ」  
お客さまのご利用状況に合わせて稼働台数(全3台)を調節しています。  
(写真では、お客さまが利用しておられる左側のみが稼働しています。)

## 京阪グループにおける環境活動の推進について

京阪グループでは、グループ全体として環境活動を推進するため、「環境対策推進委員会」（委員長：佐藤茂雄・当社社長）を設けています。委員会では、当該年度の活動方針を決定するとともに、各社の活動推進状況を評価するなど、情報の共有化を図ることを通じて各社の環境活動への自発的な取り組みを促しています。

グループ各社の具体的な取り組みは、環境マネジメントシステムの構築・運用を大きな柱としています。具体的には、下記の4つの環境マネジメントシステムから、各社の事業内容などを勘案したうえで最適なタイプを採択し、推進するものとしています。

### 環境マネジメントシステムタイプ

- **認証タイプ** ISO14001、京都方式の「KES」や環境省の「エコアクション21」などの環境マネジメントシステム要求事項に適合したシステムで、外部審査機関による審査登録を行います
- **準拠タイプ** 環境ISOに準じますが、その一部を省略したシステムです
- **基本タイプ** 環境ISOの基本要素を抽出したシステムです
- **簡易タイプ** 環境にやさしい改善活動のみを取り組みの対象とするシステムです

## 京阪グループの環境ビジネス (by (株)かんこう・(株)ソイルエンジニアリング・成幸工業(株))

近年、国内各地でその存在が明らかになり、大きな社会問題となりつつあるのが土壌汚染の問題です。言うまでもなく、土地は人間の活動の基盤となるもので、日々の生活はその上に成り立っています。そういう意味で、この土壌汚染の問題は、私たちにとって最も身近な環境問題のひとつであり、三社は協力してこの問題の解決に取り組んでいます。

(株)かんこうは、航空測量により蓄積した航空写真などのデータやコンサルタントとしての経験を、(株)ソイルエンジニアリングは、ボーリング会社としてのノウハウをそれぞれ生かして、土地の履歴調査や土壌汚染状況の調査、さらには浄化作業についての提案などを行っています。2004年度は、両社で100件を超える調査を受注しました（両社は環境大臣および大阪府知事の指定調査機関です）。

一方、成幸工業(株)は、遮水壁などの施工で培った実績や技術力を生かした土壌改良の分野で着実に実績を伸ばしつつあります。その施工例として、鉄粉混合法による塩素系有機化合物の浄化作業や、重金属等による汚染土壌の不溶化工事などがあります。



▲SCSC式簡易ボーリングによる  
土壌試料採取



▲鉄粉法による浄化作業

## グループ各社における取り組み

### (株)琵琶湖ホテル

同社は、2002年8月29日にISO14001の認証を受けました（ISO9001とのダブル認証は業界初）。1998年10月の新築・移転に当たり、未来型リゾートホテルとしてスタートした琵琶湖ホテルは、空調設備・衛生設備・電気設備の運用に当たり、環境に配慮した様々な取り組みを行っています。

また、琵琶湖の自然に触れて里山を体感していただくエコツアー「里山塾」の開催や、環境にやさしい棚田で収穫された棚田米のメニュー採用などにより、ホテル設計時のデザインテーマである「自然との共生」を体现しています。



▲「里山塾」の様子



#### 環境理念《(株)琵琶湖ホテル》

自然と調和し、豊かな環境と文化づくりを目指し、環境保全への取組みにより、「かけがえのない地球」と「美しい琵琶湖」を未来に引き継ぐことを環境理念としてホテル事業活動を行います。

### 江若交通(株)

同社は、昨年3月19日に制定した全7項目から成る環境方針ののっとり、①CO<sub>2</sub>の排出抑制（アイドリングストップ・エコドライブの実施）②エコオフィスの推進③廃棄物の排出抑制④グリーン購入の推進⑤バス乗車密度の向上に取り組んだ結果、本年3月11日にISO14001の認証を受けました。とりわけ、昨年10月に近江鉄道とともに運行を開始した路線バス（JR堅田駅―守山駅間／琵琶湖大橋経由）は、滋賀県内における「エコ交通」（公共交通機関や自転車、徒歩などを有機的に組み合わせ、マイカーに過度に依存しない交通体系）の柱のひとつに位置づけられており、食用油を原料として環境への負荷を抑えたバイオディーゼル2割、軽油8割の燃料を利用したエコバスを運行しています。

#### 環境方針《江若交通(株)》

近畿の水がめ「琵琶湖」を抱える滋賀県を経営基盤とする私ども江若交通は、道路運送事業を行うに当たり、環境問題の重要性を認識し、環境に配慮した事業活動に取り組み、地域の皆様に愛される企業を目指します。（以下に続く7項目は省略）



▲エコバス

### (株)大阪マーチャндаイズ・マート

同社は、一昨年11月26日、社内に「EMS（環境マネジメントシステム）委員会」を設置し、ISO14001の認証に向けてキックオフ宣言を行いました。以後、テナントの皆様や警備・清掃業務をはじめとする委託協力会社と一体となって、積極的に環境保全活動を実施した結果、昨年12月24日にISO14001の認証を受けました。現在も引き続き、グリーン購入や省エネルギーへの取り組みを推進する一方、分別回収の徹底による資源リサイクル率のアップに努めています。

#### 環境理念《(株)大阪マーチャндаイズ・マート》

当社は、環境や、省エネルギーに配慮した技術によって創る快適なビル空間の提供を通じて、大阪のアパレル業界や一般産業界の発展とともに大阪のコンベンション機能の強化に寄与します。



▲OMMビル

## 叡山電鉄(株)

同社は、1995年4月から約8年間にわたりデザイン電車「エコモーション」を運行し、環境の大切さを呼び掛けました。「エコモーション」とは、ECOLOGY（エコロジー）とLOCOMOTION（列車）とEMOTION（感動・情熱）を合わせた造語で、車体のデザインは米国の著名なアーティストであるアレックス・ボーイズ氏に担当していただきました。一昨年7月からは、「エコモーション」に代わるものとして「こもれび」を運行していますが、その車体には沿線の四季の変化と沿線に生息する動物をリアルに描く一方、自然・環境をテーマにした車内ギャラリーを開催するなど、「エコモーション」の精神は「こもれび」にもしっかりと受け継がれています。



▲エコモーション



▲こもれび

## 京阪バス(株)

同社は、環境にやさしいCNGノンステップバスを導入しています。CNGバスは圧縮天然ガス（CNG）を燃料とし、ディーゼルエンジンを使用する通常のバスに比べ、排気ガス中に含まれるNOx（窒素酸化物）を大幅に低減し、黒煙や硫黄酸化物を一切排出しないという特長があります。一昨年3月から導入を開始し、現在は6台を営業運転に供しています。また、黒煙や硫黄酸化物を95%捕集する高性能フィルターを装着した車両の導入も進めています。



▲CNGノンステップバス

## (株)京阪百貨店

同社は、昨年4月1日、社内に「環境委員会」を設置し、環境保全・改善を図る取り組みを開始しました。従来、空き缶・ペットボトル・食品発泡トレイ・牛乳パックの回収をはじめ、ハンガーリサイクルの推進、地下水の利用、清掃奉仕活動の実施などにより一定の成果を挙げましたが、今後、ISO14001の認証取得に向けて、「すがたも心もきれいな百貨店」というスタイメージにふさわしい環境対策を引き続き実践していきます。



▲京阪百貨店 守口店

### 環境方針《(株)京阪百貨店》

#### ■基本方針

京阪百貨店は企業理念にもとづき、環境への対応を経営の重点課題として捉え、快適で継続可能な生活環境の創造に向け、百貨店業として「お客様第一」を基本に環境保全に配慮した事業活動を行います。（以下に続く行動指針5項目は省略）

環境会計とは、「企業等が、持続可能な発展を目指して、社会との良好な関係を保ちつつ、環境保全への取組を効率的かつ効果的に推進していくことを目的として、事業活動における環境保全のためのコストとその活動により得られた効果を認識し、可能な限り定量的（貨幣単位又は物量単位）に測定し伝達する仕組み」（環境省「環境会計ガイドライン2005年版」より）です。

導入初年度である2004年度は、「環境保全コスト」の算定のみを行いました。前期と当期との差を算定する「環境保全効果」「環境保全対策に伴う経済効果」については、次回から算定します。

## ■ 環境保全コスト

集計範囲：当社、(株)京阪ビジネスマネジメント、(株)京阪ステーションマネジメント  
集計期間：2004年4月1日～2005年3月31日

(単位:千円)

分類	主な取り組み内容	投資	費用	
(1) 事業エリア内コスト		1,195,111	305,151	
内訳	(1)－1 公害防止コスト	・大気汚染防止 ・水質汚濁防止 ・騒音・振動防止	514,549	75,726
	(1)－2 地球環境保全コスト	・地球温暖化防止・省エネルギー ・オゾン層破壊防止	535,857	148,775
	(1)－3 資源循環コスト	・廃棄物の減量化・リサイクル ・廃棄物の処理・処分	144,705	80,650
(2) 上・下流コスト	・グリーン購入に伴い発生した通常の購入との差額	0	9,118	
(3) 管理活動コスト	・事業所の緑化・美化・景観保持 ・環境報告書（2004年度版）の作成	5,397	34,499	
(4) 研究開発コスト		0	0	
(5) 社会活動コスト	・自然保護・緑化・景観保持	37,120	0	
(6) 環境損傷対策コスト		0	0	
<b>合計</b>		<b>1,237,628</b>	<b>348,768</b>	

(参考) 当該期間の投資総額 11,391百万円

## 事業内容別環境保全コスト (単位:千円)

	投資	費用
鉄道事業	840,258	311,491
不動産事業	397,370	126
その他	0	37,151
<b>合計</b>	<b>1,237,628</b>	<b>348,768</b>

## ■ 環境会計の考え方

環境省「環境会計ガイドライン2005年版」に準拠しました。  
費用額には減価償却費を計上していません。



## 事業活動に伴う環境負荷 (2004年度)



INPUT	
	使用量
電力	283,104 千kwh
都市ガス	317 千m <sup>3</sup>
プロパンガス	6 千m <sup>3</sup>
A重油	244 ㎥
灯油	43 ㎥
ガソリン	65 ㎥
軽油	122 ㎥
水	472 千m <sup>3</sup>
紙	6,143 千枚
アセチレンガス	224 kg
塗料	8,480 kg
車両用洗淨液	6,016 kg

OUTPUT		
		排出量
CO <sub>2</sub> 排出量	電力	107,013 t-CO <sub>2</sub>
	都市ガス	668 t-CO <sub>2</sub>
	プロパンガス	37 t-CO <sub>2</sub>
	A重油	661 t-CO <sub>2</sub>
	灯油	108 t-CO <sub>2</sub>
	ガソリン	150 t-CO <sub>2</sub>
	軽油	321 t-CO <sub>2</sub>
	合計	108,959 t-CO <sub>2</sub>
一般廃棄物		5,768 t
産業廃棄物	汚泥	96,169 t
	廃油	16 t
	廃プラスチック類	198 t
	金属くず	554 t
	ガラスくず	31 t
	コンクリートくず	2,845 t
	陶磁器くず	421 t
	がれき類	20,977 t
	合計	121,213 t
特別管理産業廃棄物	廃酸	220 ℓ
	廃アルカリ	640 ℓ
	感染性産業廃棄物	40 ℓ
	合計	900 ℓ
特定有害産業廃棄物	廃石綿	600 kg
	廃PCB (2006年8月まで当社が保管する予定)	
	変圧器	2 台
	高圧コンデンサ	2 台
	蛍光灯安定器	18 台

RECYCLE	
取り組み項目	数量
トローリー線くず	6 t
銅線くず	6 t
被覆線くず	55 t
銅くず	1 t
ボンドくず	1 t
黄銅くず	1 t
アルミくず	2 t
鉄くず	600 t
鉄線くず	11 t
鉄柱・トラス	20 t
古レール	735 t
古レール付属品	120 t
古金属スリ板	2 t
古車輪	117 t
コンクリートくず	14,814 t
アスファルトくず	10,871 t
廃きつぷ	28 t
合計	27,392 t
古木まくらぎ	1,220 本
古機械器具	5,573 個

① 事業活動に伴う環境負荷データについては、昨年は環境活動にかかるインプット・アウトプット集計を行いました。本年より当社（ひらかたパークを含みます）全体の集計としました。なお、データには推計値を含んでいます。

② CO<sub>2</sub>排出量の換算値については、環境省「事業者からの温室効果ガスの排出量算定方法ガイドライン」（2003年7月）を参考にしています。



